

# 泉 いずみ

―目次―

表紙 「コウノトリのコウちゃん」三頁参照

百折不撓「当たり前を問う」野呂大悟

愛しのコウちゃん物語 野呂美道

ティディーベア物語 野呂美道

広島研修②離島の星 野呂美道

連載「私の出会った神様たち③⑩」

ともに歩み 命に寄り添う⑤ 浄香

掲示板・お知らせなど



9月下旬、福井県からコウノトリがやってきました。地域の人たちが、温かく見守っています

遙かより 刈田に一羽 コウノトリ 博子

気候もすっかりと秋めいてきて、過ぎしやうい日々になりました。しかし、秋もあつという間。すぐに冬が始まりますね。最近では夏が長く、秋がとて短いような気がします。ですが、秋を感じることが出来るのも、夏や冬・春があつてこそです。

「恵姑（けいこ）春秋を知らず。伊虫あに朱陽の節を知らんや（いちゅうあにしゅようのせつをしらんや）」という言葉があります。「蝉は夏に地中に出てきて、夏の間死んでしまうため、春や秋を知らないばかりか、実は夏も知らないのだ」という意味です。これを日常生活に例えるならば、携帯電話を「便利だ」と感じるのは、携帯電話がなかった時代を知っているからであり、生まれた時から携帯電話があれば、「便利」ではなく「当たり前」になるのでしょう。カーナビも今や道順はもろろんですが、渋滞を避けてくれたり、到着時間までもほぼ正確に知らせてくれます。行く前に地図で調べ、頭の中に地図をインプットしたつもりでも、途中で車を止めて地図で調べ直す。なんて事を経験してきた方々は、考えられないほど便利で快適に移動できるようになったと感じるではないでしょうか。

快適さや便利さの発展は、効率性と生活の質を向上させる一つの手段であると思います。要は、無駄を省くという意味では効果的なのでしょう。私もその恩恵は多く受けて生活をしています。これからも、さらなる文明の発展と共に、より快適

に、効率よく生活できる時代が来るのでしよう。私も「へえ〜これは便利だ」と思いながら、その恩恵をもっともつと受ける事だと思えます。しかし、世の中の物事には常に表裏があるという事も忘れてはなりません。不便さや非効率的であるからこそ大切さもたくさんあります。待ち合わせ一つとっても携帯電話がなければ、事前に相手と時間や場所をきちんと確認し合い、時間に遅れないように行き方を事前に調べることでしよう。当日も、時間に遅れないよう家を出る。など、今よりも多くの時間と手間を使っていたと思います。今考えれば非効率的かもしれないませんが、その一連の行為は「相手の立場に立つ」時間を大切にしていることではないでしょうか。簡単に相手へ連絡できれば、そこまで考えることはないでしょう。遅れそうであれば、「三〇分」で「ごめん。遅れる〜」と打てば、すぐに解決できます。場所も分からなければGoogleMapで自動的に連れて行ってくれ、事前に調べなくても解決できます。要は、快適さや便利さの向上は、「相手のことを思う・他者の立場に立つ」時間をどんどん奪っているようにも思います。それが当たり前になれば、「感謝」の心はどんどん減少していくと思えます。なぜなら、感謝とはありがたうと頭が下がる事。「ありがたう」とは「有り難し」。「有る」ことが「難しい」からこそ、人は感謝の想いが湧き上がるのです。が、「当たり前」になっていけば、我が物顔になる。快適さや便利さの裏にはそんな事が隠されているのではないのでしょうか。

◆ほのぼのとした話題を提供しよう。9月の下旬、近所の先輩から一通の電話を受け取った。「トキがいるよ！」実はトキではなく、コウノトリだった。◆そういうえば、寺の東に車が止まっている。見ると道路にサギらしい鳥がいた。いや、どうもサギではない。もっと大きな鳥だ。しかも尻尾が黒い。◆鈍感な私もこれがコウノトリだとやっと分かった。でも、どうして愛西市までやって来たのだろう。バードウオッチャーのマニアから隣人が貴重な情報を得た。超望遠レンズで確認したところ、足輪があり、番号を調べたら、何と福井県からはるばる飛来したらしい。◆隣人が福井県に問い合わせると、間違いないとの事。捕獲して移送してくれないかと頼んだところ、それはむずかしいとの事、何かのご縁でそちらに行ったのだから、大切に見守ってやって欲しい、と体よく断わられた。コウノトリは保護鳥で、有名な保護地区では兵庫県の豊岡市などがある。◆安泉寺の前の水田が餌場の一つになっているようで、コウノトリは数日おきにそこで餌を物色している。カエルやザリガニや小魚といった動物が好物らしい。◆人間がカメラをもって近づいても、あまり逃げない。きっと福井でも人と共存していたので、恐怖心がないのかもしれない。◆孫はさっそく「コウちゃん」と命名した。この辺りは蓮根田に鴨よけの網が張られている。コウちゃんが網に引っかかれば命がない。みんなで助けてやらねば。そして、アライグマ、ハクビシン、タヌキといった害獣もいる。コウちゃんにとっては、まことに厳しい住環境だ。

◆ところで私はある仮説を立てた。先程の先輩が山陰・北陸方面にバス旅行に行った。コウちゃんはどうも先輩に横恋慕したらしい。バスの後を必死に追いかけて、はるばる愛西市まで来てしまったのではないか。コウちゃんは雌である（と思う）。◆ある晴れた朝、カラスやサギの鳴き声があった。見ると彼らを従えるように、巨大なコウちゃんが優美な姿を見せて、安泉寺上空を周回していた。（写真参照）その姿は、自信に満ちて、他の鳥を圧倒していた。◆だが、コウちゃんは一つ大切な忘れ物をした。白布に包まれた赤ちゃんを忘れたらしい。赤ちゃん不足の三和町にとって、コウちゃんの忘れ物は痛い。もう一度戻って赤ちゃんを運んできて欲しい。



◆私が以前から紹介したかった科学者がいる。メツセンジャーRNA (mRNA) ワクチンの開発で、ノーベル生理学・医学賞を受賞することが決まったアメリカ・ペンシルベニア大学特任教授のカタリン・カリコさん(68才)だ。◆彼女はコロナ禍の中で、ワクチン開発の基礎を作った偉大な科学者だ。当時、祖国ハンガリーで、彼女はRNAの研究で、資金に行き詰まり、自由に研究できるアメリカへの移住を決意した。車を売って千ドルを工面したが、母国からお金が出せないことを知り、娘がいつも抱いているティディーベアの頭部にそれを縫い込んだ。◆無事、飛行機に乗り込んだ一家は、片道切符のお金だけを持ってアメリカへやってきた。苦勞しながらアメリカでの研究生活が始まった。当時の常識では、RNAを医学で使うことは不可能だと考えられていたが、カリコさんは今ではこれで治せる病気があると信じて研究を続けた。◆同じく共同受賞者となった同大学のドリュー・ワイスマンさん(64才)は、カリコさんのアイデアに医療への可能性を見出した。◆やがて二人は、mRNAを安全に人体に送り込む方法を見つけた。これにより、人体がウイルスに対する耐性を持つことができる、画期的なワクチン開発を確立した。◆時は2020年、新型コロナウイルスで世界はパンデミックとなった。◆カリコさんはベンチャー企業のピオンテックに移籍。ファイザー社と共同開発で、ワクチン製造が始まり、世界の人々への接種が始まった。◆ティディーベアをもって出国した長女スーザンさんは後にオリンピック・ボートのアメリカ代表で、金メダルを

5年)10月4日(水曜日)

中

取った。◆カリコさんはボートと研究には共通点があるという。「選手は競技中は背中を向けているので、ゴールが見えない。研究も正しい方向に向かっているのか分からないけれど、ゴールがあるとイメージして必死に漕いでいくのです。」◆IPS細胞でノーベル賞を受賞した山中伸弥教授はカリコさんの業績を高く評価した。二人は未来への医療に向けて、生涯開発を続けるライバルとなるだろう。◆私は科学を人類のために生かすカリコさん達に最大限の賛辞を贈る一人だ。(文の内容と写真は中日新聞の十月四日付けの記事を参照)



①カタリン・カリコさんが渡米時に手持ちの財産を隠したという「ティディーベア」と娘(本人提供) ②2日、米東部フィラデルフィアで記者会見する米ペンシルベニア大のカリコさん(左)・共同



◆二日目に、後輩の友人で、クルーズ船を所有している星野船長に出会った。彼の眼はキラキラと輝き、日焼けした精悍な顔つきは、親しそうな表情も併せ持っていた。◆船は7000万円もする最新型で、巡航速度はゆうに30ノット(時速55キロ)を越す。船長は轟くような声で、私たちに話しかけてきた。◆写真は、彼がリフォームした、民家の宿泊施設。外側は古びた民家だが、中は素晴らしい!家族が貸し切りで寝泊まりできる。外ではバーベキューや釣り、カヤックや、水上バイクもできる。◆彼の構想は、観光客を誘致し、クルーズ船をフル稼働させて、過疎の島をレジャーの観光地にすること。気に入ったら、リピーターになってもらい、口コミで島の観光を進めることだ。◆私たちが訪れた島は、実にきれいな水と、穏やかな雰囲気にもまれた隠れリゾートの素晴らしさがあった。まだまだ開発の余地あり。大手の会社ではなく、個人がアイデアを絞って開発する手作りの感触があった。私は正直、また来たい!と思った。◆それにしても、クルーズ船の乗り心地は迫力満点だった。よく揺れたが、誰も乗り物酔いはしなかった。特に船尾の光景は、波が逆立ち、髪の毛までも逆立ち、大音量の滝を目の当たりに見ているような錯覚に陥った。◆砂浜の見える海はエメラルド色に染まり、遠くの島々は、どれも美しく輝いていた。◆後輩はとても顔が広く、多くの有能な人材を知っている。今回、彼のおかげで、格安で船を貸切ったの島めぐりとなった。こんな贅沢な観光は今まで味わったことがなかった。感謝である!(続く)

## 帝王と乞食②

◆「埋葬された帝王よりも生きてる乞食が素晴らしい。」これを百回言えというのです。百回というのは途中で数が分からなくなりますから、松葉をむしってきて、一回言ったらそれを並べてゆく、ということにしました。十列十本並べば百本でしょ。◆大きな声でやりましてね。最後の百本目はもう口はくたびれてしまいますしね、気持ちが悪くて来ました。あんなに死にたいと思っていたのに、もうどうでもよくなってしまいました。◆これは素晴らしいおまじないでしたかね。この言葉もいいおまじないでしたけれどね、百回声に出して繰り返せ、というところに意味があったと思うのです。◆百回やっているうちに、子供のことでずから、カーっとのぼせていた気持ちだんだんさめてきて、最後には考え直す余裕ができました。つまり、冷静になる、という教えもそこにあるわけです。◆これが納屋橋で会った神様です。もちろん、今、その方はどこに居るのかは分かりませんが、年代的に言って、生きていらっしゃるはずもございませぬし、その時僕はお名前も伺っておりませぬしね。そんなに甘酒をごちそうになつたものですから、せめて名刺だけでもと言えばいいのに（笑い）。◆もっとも名刺を持っていてるような人でもないのです。たたき

大工さんと言いましたから、インテリでも何でもありません。◆今、子供が死ぬとか何とかいう問題が起きますと、頭のいいお方がいろいろと集まって、検討をなさいますけどね。子供をほったらかしておいて、いろんな議論をなさるけれども、とうの子供はどこへ行ったのでしょうか。◆そのおじさんは単なるたたき大工で、インテリでも何でもありませんよ。このおじさんが生きる知恵を持っていて、行きずりの薄汚い少年に教えてくれたのです。◆人生は素晴らしいものだと僕は思いました。賢いということは、頭だけではないのです。このおじさんもきつと誰かにこの言葉を教わって、きつと自分が死にたいと思つたときに、その言葉を応用して言ったのではないのでしょうか。自分が良かったから僕にも教えてくれたのではないのでしょうか。◆僕も良かったから今一生懸命教えてます。今、若い人が僕から見ればつまらないことで自殺をします。そんな時、先ほどの言葉を言っております。本当に良く伝わってゆくのです。

(続く)



ともに歩み、命に寄り添う

第五回 命を看取る覚悟

浄香きよか

「お父さ〜ん。枝付きの枝豆を一箱いただいたよ」と私が言う  
 うと、「切り離してあげるから新聞とハサミをもってきて〜」  
 と父。我が家の毎年の恒例行事です。余命半年と言われなが  
 らも、二人で枝豆をおいしくいただくことができました。と  
 ころが、ある朝、父の様子がいつもと少し違っていました。  
 「しんどい。透析に行きたくない」と言う父に、「透析は絶対  
 に行かなくちゃいけないのよ。例え台風の日でもよ」などと  
 言いながら、介護タクシーに乗せました。しばらくすると、透  
 析室の看護師さんから「検査をするので病院に来てください」  
 という電話が入りました。透析後、父の検査に付き添い、最後  
 は循環器内科へ。透析室の看護師さんが急ぎ足で循環器の診  
 察室に入っていかれるのを見て、嫌な予感がしました。名前  
 を呼ばれて診察室に入っていくと、そこに父はいません。代  
 わりに先生と数人の看護師さんがいらっしやり、いきなり先  
 生から「心筋梗塞です。おそらく命はもってあと一週間」と言  
 われたのです。私は頭の中が真っ白になりました。続けて先  
 生から「選択肢は三つ。一つ目は、今すぐ救急車で市立病院に  
 連れて行く。手術に耐えられたとしても、その後は集中治療  
 室に入るの、娘さんとは会えません。そして生きて家に帰

ることはできないでしょう。二つ目は、手術を諦めてこのま  
 まこの病院に入院し、透析を続ける。コロナ禍で娘さんは病  
 室には入れません。そして、やはり生きて家に帰ることは難  
 しいでしょう。三つ目は、治療を諦めてこのままご自宅に帰  
 る。ご自宅でお父さんと一緒に最期まで過ごすことが可能で  
 す。どうされますか？」と言われました。

今朝まで、父はいつものように自宅で過ごしていたので  
 す。治療を望めば、生きて家に帰ることが難しいだなんて。  
 手術に耐えることができれば、少しでも長く生きることがで  
 きるの？でも、私と一緒に過ごすことは許されないの？病  
 室でしんどい思いをしながら人生の最期を迎え日までたつ  
 た一人で過ごせと？想像するだけで、私は耐えられません。  
 涙があふれ、いろいろなことを考える私に、先生が一言。「自  
 宅で、一人娘さんのあなたがたった一人で、お父さんの――  
 人の命を看取る覚悟がありますか？」。私がどんなに辛と思  
 いをしても、とにかく頑張れるところまでやってみよう。そ  
 う、私自身が後悔しないために……。覚悟を決めたその時、  
 父が診察室に入ってきました。車いすに座っていた父は何も  
 語らず、ただ私の目をじっと見つめるだけ。そんな父に私は  
 微笑みながら言ったのです。「お父さん、  
 おつかれさま。検査大変だったでしょう？  
 一緒に家に帰ろうね。お腹がすいたね。」  
 晚ごはん、何が食べたい？」。



### 11月の行事予定

和讃講 一日(水)

環境保全活動・ヨガ 十一日(土)

寺総代年番会・写真クラブ 十八日(土)

報恩講団参 二十二日(水)

文芸クラブ 二十三日(木)

土曜キラリ 二十五日(土)

### 今月の掲示板

湖に浮かべたボートを  
こぐように、人は後ろ  
向きに未来へ向かって  
いく

ポール・ヴァレリー

カタリン・カリコさんの話と響きあっています。

### いずみのほとり

◆墓地の南西にあるカーブミラーが破損しました。駐車した車を避けて、無理に通った大型トラックが接触したものです。お墓参りの際は、安泉寺駐車場をご利用ください

◆三和町以外の檀家の方は、十一月の月参りの際に、保険料五千円をお支払いくください

◆来年の年回表を該当する方に挟んでおきました。お早めに法事のご予定をお知らせください

◆例年の「ほのぼのカレンダー」をお渡しいたします。ご活用ください

◆本山報恩講の団参は二十名の応募がありました。が、まだ若干名参加可です。

◆十月十四日、観光協会恒例の「蓮ワーク」が三十一名の参加を得て、実施されました。色とりどりの蓮が本堂いっぱい咲きました。

